

キャラクター名  
芽華 満(さえばな みつる)

プレイヤー名

シンドローム	モルフェウス サラマンダー	ワークス	高校生	カヴァー	高校生
オプション		年齢	17	性別	男
覚醒	感染	衝動	解放	初期侵食率	32%
出自	安定した家庭	経験	喪失	邂逅	保護者

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	29
肉体	3	1	0			4	行動値	5
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	5
精神	1	0	0			1	戦闘移動	10
社会	2	0	0			2	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転:			芸術:			知識:			情報: 噂話	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
流々天去	白兵	4r		12		
木刀	白兵	4r-1		3		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
木刀	
コネ: 噂好きの友人	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
椿鬼侑朔	P 友情	N 隔意		
佐草八雲	P 尊敬	N 劣等感		
ロイス (遺産継承者: 流々天去)	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4    残り財産P: 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト: サラマンダー	2	2						
効果:								
炎神の怒り	3	3	メジャー/リアクション			肉体		
効果:	ダイス+LV+1 HP3点							
水晶の剣	3	4	メジャー					
効果:	武器の攻撃力+LV×2 シナリオ3回							
炎陣	1	2	オート	至近				
効果:	カバーリングができるぞ!							
砂の加護	3	3	オート		単体			
効果:	ダイス+LV+1 ラウンド1回							
クロスバースト	3	4	メジャー				80	
効果:	攻撃力+LV×4 ダイス-2							
サポートデバイス	3	6	セットアップ				80	
効果:	ラウンド ダイス+LV×2 シナリオ3回							
カスタマイズ	3	2	メジャー					
効果:	ダイス+LV							
氷の回廊	1	1	マイナー					
効果:	飛行状態で戦闘移動を行う。移動距離+LV×2							
クリスタライズ	2	4	メジャー				100	
効果:	装甲無視。ダメージ+LV×3。シナリオ3回							
テクスチャーチェンジ	1							
効果:	右腕を生身のそれに見せかけている							
効果:								
効果:								
効果:								

年中、右手に薄革の黒手袋をはめている男子学生。  
 学友からは「邪気眼」、「ライトハンド」等の不名誉称号を賜るが、  
 そう呼ばれる度に、ノリノリで中二病っぽくおどけてみせる。  
 どの学級にも一人はいそうな、三枚目なおちゃらけ野郎である。

右腕の肘から先の大部分が、痣のように蒼黒く変色しており、感覚が無く、指は親指から中指までの三本は動かない。  
 これは、幼少期、覚醒直後のオヴァードの能力に巻き込まれ、右腕を胆嚢の結晶に変えられてしまったためである。  
 当時は、腕の結晶を無毒化することには成功したものの、元通りにはならず、  
 万が一の結晶の再活性化やレネゲイドウィルスの感染等を考慮して、右腕の切除が検討されたが、  
 「もう一度会って、この小指で約束したんだ」  
 「アイツの手をつかもうとしたけど、石になって、できなかったんだ。だから、いつか……」  
 という本人の哀願を受けて、中止となる。  
 結晶のままでは一般人の目につくため、人肌として認識される偽装が施されている。  
 本人にも記憶処理は施され、その事件、その願いは忘れ去られていた。

オヴァードとして覚醒した彼は、主に自身の右腕を青色の"砂"へと変化させ、自在に操る。  
 半ば失われた右腕を再構成し、蒼の装甲をまじった力強い義腕として蘇らせるのだ。  
 かつての願いを叶えるかのように。